



ほけんだより 8月

日に日に日差しが強くなり、夏も本番になりました。明るい笑顔の子どもたちは元気そうにみえても体は意外に疲れています。まだまだ続く長～い夏！暑さに負けない体づくりのためにも食事・睡眠・休息を上手にとってこの夏を乗り切りましょう。

「熱中症？」 そのときに

子どもたちが大好きな夏ですが、熱中症には注意を。子どもに異変があったら、すぐに手当てをして重症化を防ぎましょう。



① 涼しい場所へ移動する

風通しのよい日陰や涼しい室内に連れて寝かせ、服のボタンやベルトを外す。



② 体を冷やす

ぬらしたタオルで体をふき、うちわや扇風機の風を当てて体にこもった熱を逃がす。



③ 水分を少しずつ与える

麦茶や子ども用のイオン飲料などをひと口ずつ与える。一度に飲ませず、様子を見ながら。

- 冷やしたタオル
 - タオルに包んだ保冷剤
 - 冷えた缶ジュース
- などを挟んで冷やすと効果的



注意!!

39℃以上の発熱があり、ぐったりして意識がないときは救急車を呼びます

～ RS ウイルス感染症～

園では未満児を中心に夏かぜで高熱が出てお休みする子どもさんが増えました。全国的には RS ウイルス感染症の流行が心配されています。RS ウイルスによる呼吸器感染症です。はじめは、鼻水や咳などの風邪の様な症状で始まりますが、ひどくなると高熱が出たり、喘息（ゼーゼー、ヒューヒュー）が出現します。1才未満の子どもさんは肺炎や気管支炎を起こし、重症化することもありますので注意が必要です。

新型コロナウイルス感染症

福岡県でもまた徐々に新型コロナ感染症が増えています。夏休みに入り、人の往来が活発になる時期でもありますので、感染対策の徹底をお願いします。登園の際は必ず検温をしていただき、発熱や風邪症状がある場合は、自宅で安静に過ごしましょう。

とびひの増える季節です

とびひは、夏の疲れが出る8月の終わりから9月ごろに多くなります。虫刺されの跡や傷に、菌が付いて発症することが多いようです。「傷がじゅくじゅくしている」「なかなか傷が治らない」というのがとびひの始まりのサイン。やがてかゆみの強い水ぼうがができます。これをかきこわした手でほかの所をかくと、そこにもとびひが広がります。



主な症状

- 皮膚に小指のつめくらの水ぼうがができる
- 水ぶくれや、赤くじゅくじゅくした、ただれた状態になる
- 強いかゆみがある

家庭での手当て

- じゅくじゅくした部分はガーゼで覆う。皮膚科で処方された薬があれば塗ってから、ガーゼで覆う
- お風呂では湯船につからず、シャワーで洗い流して清潔を保つ
- 湯上がりはこすらずふき取り、薬を塗る



患部が乾燥すれば、うつる心配はありません。じゅくじゅくしていたら、ガーゼで覆いましょう

